

平成26年度第3回 読書のまち八王子推進連絡会議 会議録

日時 平成26年8月26日（火） 午後6時00分～8時00分

場所 八王子市中央図書館 3階 会議室

議題 (1) 第三次読書のまち八王子推進計画の素案について

その他

出席者氏名

委員	三浦 眞一	小平 有紀	三塚 久美子	吉澤 淳
	鈴木 康弘	谷口 葉子	中村 和也	志田原 節子
	豊田 亘男	三上 浩一	田中 勉	平塚 裕之
	細井 東			

欠席委員 山崎 久道 齊藤 和巳 森岡 庸浩

※過半数以上の出席があるため、有効に成立。

事務局 豊田図書館部長、中村中央図書館長、青木生涯学習センター図書館長
村田南大沢図書館長、福島川口図書館長

中央図書館：一杉主査

生涯学習センター図書館：高橋主査

川口図書館：嶋崎主査 藤本主査

南大沢図書館：新井主査

傍聴人 3 人

会議録署名委員 吉澤 淳

【議事概要】

議題（１）第三次読書のまち八王子推進計画の素案について

《事務局より報告》

昨年の10月に第三次読書のまち八王子推進計画の策定方針を示し、第二次計画の実績等を説明した中で、課題について3月まで「読書のまち八王子推進連絡会議」で整理しました。それを踏まえ、素案を作成しましたのでご意見をお願いいたします。

第二章 子ども読書活動推進計画

1 地域における読書活動の推進に向けた取組み

《委員の質問》

- ①「学童保育における学校図書館の利用」とあるが、今現在、学童保育所で学校図書館を利用している事例はあるのか。

《事務局からの回答》

- ①今現在では学童保育で学校図書館を使用している事例はない。拡充という面で考えているので、第三次計画の中で実現できるよう働きかけていく。

《委員からの意見》

- ①学童保育所が学校施設を利用するためには専有スペースを確保しなければならなかったが、緩和される動きがあり、共有スペースを学童保育所でも使用できる国の考え方が示されている。学校図書館を共有として使用ができれば学童保育所にとっては非常にメリットがあることなので進めていただきたい。
- ②今までの会議の中でも、学校図書館の開放については議論がされてきたので、それを踏まえての計画と思われる。実現に向けた取組を行ってほしい。

2 学校における読書活動の推進に向けた取組み

《委員の質問》

- ①「学校図書館の蔵書の充実」とあるが何を持って充実と言うのか、八王子市としての基準はあるのか。例えば5年以内の図書の割合を決めるとか。実情では文科省が決めた冊数の基準に縛られ、古い本を処分せずに蔵書している学校もあるのでは。
- ②「地域の連携による学校図書館の活用」の中に、「学校図書館の開放」とあるが、所管部署が小学校・中学校・図書館となっている。3部署の連携だけで可能なのか。また、休日の開放や、警備等の問題についても考えているのか。

- ③「学校図書館サポートセンターを教育センター内に設置し、学校図書館サポーターの増員を図り」とあるが、これにより全校に図書館サポーターが配置されるのか。毎年サポーターの人員は少しずつ増えているが、全校に派遣されなければ格差が生じたままではないか。平等にしてほしい。

《事務局からの回答》

- ①学校図書館サポーターの派遣により、蔵書の整理をしている状況である。2年ほどで全学校図書館の整理ができる見込みである。しかし、サポーターが居なくなっても環境を維持するために基準等が必要であれば、図書館部としても支援を行いながら考えていきたい。
- ②現段階で開放日までの議論は行っていないが、学校が開校している日を想定している。5年計画の取り組みなので、進める中で具体的にしていき、他部署等の協力が必要であれば協力を求めていきたい。
- また、現状でもボランティアの方に関わっていただいている中で、地域への活用を目指したいが、警備等の課題も認識している。最終的には「だれでも」が理想だが、まずは、実際にその学校に通っている生徒及びその保護者とボランティアで行うことを考えている。

《学校教育部指導課からの回答》

- ③八王子市のアクションプランに計画は出しているが、査定されている段階なので何とも言えない。しかし、現在11名で44校を回っており、市内の小中学校107校を網羅するには27名必要となり、11名を直ぐに27名に増員するのは難しい状況。まずは小学校の全校派遣を目指していく。

《委員からの意見》

- ①学校図書館は学校教育部の範疇になってしまい、図書館部としては難しい面があると思うが、八王子市としての取り組みの中で学校教育部との連携をお願いしたい。
- ②学校図書館の図書購入については年度当初に各学校予算として一括配当され、何にどの程度の予算を使用するかは学校側の裁量で決められる。しかし、学校図書館活用協議会で話をしてみると学校により差があり、図書購入として約100万円の学校もあれば、0円の学校もあるとのこと。学校予算も限られているので、学校側の運営方針等によって予算執行されるのが現状。学校として図書購入に力を入れていただかないと新書は増えないのでは。
- ②学校配当予算で必要経費等を除くと、残る予算事態も少ないのが現状。その中で図書購入に充てられる予算を捻出するのは難しいと思うが、年度によって図書購入に力を入れる等の考えも必要ではないか。

3 公共図書館における読書活動の推進に向けた取組

《委員の質問》

- ①「図書館の利用カードを一定の学年で配付する」とあり、面白い取り組みだと思うが、他の自治体では行っているのか。

《事務局からの回答》

- ①全自治体に確認はしてはいないが、おそらく他自治体では行っていないと思う。また、この取り組みは連絡会議で委員の方から出していただいた計画です。

《委員からの意見》

- ①利用カード配付も良いと思うが、出張登録サービスみたいに学校等で利用者登録ができるようにするのも考えていただければ小学校低学年の子どももカードを持てるようになるのでは。
- ②カードを持たせるのは良いが、紛失等の取り扱いについてもきちんと説明・指導をお願いしたい。

子ども読書活動推進計画全体を通して

《委員の質問》

- ①親子でのイベント等の取り組みについて記載されているが、子育て家庭の孤立と言われている問題がある中で、イベント等を通して親子同士の交流も必然的に行われると思うが、そのような視点での計画も考えられないか。

《事務局からの回答》

- ①計画の中での「市民団体等との連携・支援」で、子ども読書に関わるサークルや団体に支援を行うことにより、お母さん同士の声掛け等に繋がっていくと考えている。

第一章 生涯読書推進計画

1 地域における読書活動の推進に向けた取組

《委員からの意見》

- ①地区図書室に対しての要望を見ると、単にコミュニティー施設としての位置付けではなくなっているように思われる。コミュニティー施設としての地区図書室の役割があってもいいが、オーバーフローするような地区図書室の役割が求められている以上、ふれあい財団にも検討していただく必要があるのでは。

2 学校における読書活動の推進に向けて取組

《委員の質問》

- ①単に利用できませんでは、大学図書館と言うと敷居が高く感じてしまい、なかなか行ってみようとは思われないので、PR方法を工夫してみてもは。例えば、各大学図書館へ取材を行い、「この大学図書館はここが凄い！」みたいな広報活動は考えられないのか。

《事務局からの回答》

- ①大学によって特色があり、専門書が凄い書籍数である。市民の方に広く情報発信できるよう議論をしており、図書館マップを新たに作成して各大学のPR文章を記載する案もある。

《委員からの意見》

- ①専門的な目線でのPRも必要だと思うが、今の人が興味を持つような文章でのPRも必要で、杓子定規な言葉や行政言葉では読まれないのでは。取材記者を募集して、市民にやってもらうと文章も面白くなると思う。
- ②どうやって入っていくかも分からず、大学図書館の利用方法を写真やイラスト等を加えて気軽に行けるようなPRをしてほしい。大学図書館体験レポートも面白いのでは。

3 公共図書館における読書活動の推進に向けて取組

《委員の質問》

- ①広域連携について、隣接市は全て連携されているのか。
- ②近隣市図書館へ単純に「行けますよ」と言うのではなく、更に活用させて市民の読書活動に結び付ける計画は考えているのか。
- ③電子書籍の状況はどうなっているのか。
- ④ボランティア団体による学校への本の修理や講師派遣は年間にどの程度あるのか。
- ⑤「専門職のスキルアップ」と記載されているが具体案はあるのか。

《事務局からの回答》

- ①昭島市との連携ができていない。
- ②先ほど意見を頂いた体験レポートを近隣市図書館についても検討したい。
- ③電子書籍については、現状では地盤も出来ていないため、全国の図書館でも30館程度が取り入れている。しかし、電子化の流れは進むと見ているので、5年間の計画の中で見極めながらシステム更新を見据えて対応を目指している。ユニバーサルデザインにも繋がる媒体であるので計画として掲げている。

- ④統計は今直ぐには分からないが、現在ボランティアの方により年間約5千冊を各図書館で修理をしていることを活かし、学校等へ伝えていけるよう仕組みの整理をしていく。
- ⑤都立図書館で行っている研修に積極的に参加し、特にレファレンス能力の向上に力を入れたい。また、OJTにより研修に参加した職員以外のスキルアップにつなげる計画を考えている。

《委員からの意見》

- ①障害のある方・高齢者の方だけではなく、幼児・子どもや子育て世代も含めたユニバーサルデザインの計画も考えていただきたい。

その他

- (1) 本日いただいた意見を含め、次回会議には文案を添えて説明させていただきます。

つきましては、次回会議を平成26年10月14日(火)、18時から

八王子市中央図書館 3階 会議室

で行う予定とします。